

市長と住民の「こんだん会」
～臥雲市長にアタック！地域の元気な声を届けよう～
(安曇地区開催報告)

1 日時等

(1) 日 時

令和4年11月6日(日) 14時～16時30分

(2) 場 所

安曇基幹集落センター 2階 大会議室

2 参加人員

臥雲市長ほか36名(意見交換者16名、傍聴者11名、関係職員等9名)

3 テーマ

地域活動を通じた「安曇の魅力や未来」を語ろう。

4 懇談内容

(1) ブリッジ(世代や地域間の橋渡し)

ブリッジは、現在約70人のメンバー(大野川中学校卒業生)で構成し、主に10人位で活動し、地域の人を楽しめるイベントなどを企画しています。

また、大野川小中学校への転入者や地域への移住者を増やしていくにはどうしたらいいか話し合っており、今回メンバーの取り組みを紹介します。

1つ目は、地域の子供たちの教育、暮らしの充実として、子供たちの居場所を作り、多世代と関わる仕組みづくりや、継続出来る体制を検討しています。

2つ目は、子どもを増やす活動として、子育て世代にとって生活の場を知らない場所に移すのは、ハードルが高いため、まずは、短期移住者や地域に関わってくれる2拠点居住者(関係人口)を増やす取り組みをしています。

以上、この2つを実現するために、教育委員会や移住推進課の皆さんに、引き続きこの地域活性化のためにお力添えいただきますようお願いいたします。

【市長コメント】

大野川中学校を卒業して、いろんな経験をしてきた若い人たちが、自分たちの世代やより若い世代に引き継いでいく上で、やはり学校教育の問題を好転させるためには、住まいの問題を解決することが必要で、地域で使われていない建物を活用するための支援等を考えていかなければいけない。



【教育長コメント】

大野川小中学校の場合は、短期移住者という形で、何度か家族と一緒に来て、学校で教育を受けるというような可能性を探った方がいいと感じています。

1つ柔軟な制度として、区域外就学制度というのがあります。

大都市圏から短期留学的に他校に籍を置いて、教育を受ける制度もありますので、今後、研究・相談しながらできないかと思っています。

【ブリッジコメント】

自然について学ぶ機会が増えることだけでも全然違うと思いますし、地域の中でしか学べないことを教育に取り入れるなど、柔軟にできるようにしていただけるとありがたいと思います。

(2) 安曇中学校生徒（上高地での活動等）

上高地（大正池）の河床上昇について、様々な課題に対する解決方法を調べ、小学生の時に発表しましたが、中学生になって、改めて上高地の河川上昇対策について取り組みを行い、現地で観光客の方に「大正池に関する聞き取り調査」を実施し、83%の観光客の方が河床上昇への対策を希望していることが分かりました。

土砂の堆積は大正池の問題だけではなく、上流にも土砂は堆積しています。

上高地の景観を守るため、上高地にいる人達の安全を守るため、上高地を助けてください。



(3) 大野川中学校生徒（乗鞍のピーアール活動）

私たちが住んでいる乗鞍高原は年々人口が減少し、このままでは私たちの学校がなくなってしまうという思いから、乗鞍高原の活性化を目指してピーアール活動をしています。



今年度の取組みは、乗鞍の良さを「保ちよりよくする。」「発信する。」「味わってほしい。」とし、ポストカード班・クーポン付きパンフレット班・白樺コースター班等として活動しています。

第1回ピーアール活動を松本城公園で9月に行いました。観光客の方にポストカードと白樺コースターを配布したり、アルプホルンを吹いたりしました。

それではここで、9月に行ったピーアール活動を実演します。

【市長コメント】

安曇中学校の発表は、世界に誇る景勝地が地元にある学校として、日常的に上高地に接する機会があり、河床上昇という難しい問題に子どもの頃から向き合っていることが分かりました。これからも地元の人達と周りを大きく巻き込んで、取り組みを続けてもらえればと思います。

大野川中学校の発表は、先ほど皆さんが実演したように乗鞍のピーアール活動を楽しそうに行うと、どういう場所なんだろうというに気持ちになると思います。

これからも分からないことは、ぜひ地域の人たちに聞いて、自分のやりたいようにやってほしいと思いました。



【教育長コメント】

安曇中学校・大野川中学校の発表の中で、上高地や乗鞍の自然の素晴らしさやいろいろな魅力、また課題等があったと思いますが、今皆さんが自分の地域の中で、課題に向き合うことで、皆さんの視線の鋭さや感性の豊かさを改めて感じました。

小学校から中学校までトータルで地域の課題に対して、総合的に見ていく、その学習が活かされたと感じました。

(4) 上高地を美しくする会（自然保護活動）

上高地を美しくする会の活動は、来年の9月に60周年の節目を迎えます。

活動のきっかけは60年以上も前になりますが、その当時はタバコを吸っているのが当たり前で、マイカー規制もありませんでしたので、キャンプ場に大量のゴミが散乱していました。

当時の環境庁の職員から、「上高地は国民の財産だから、皆さんで綺麗にして、上高地を訪れた方が喜んで帰ってもらえるようにしよう。」と呼びかけがあり、皆さんと一緒に上高地を美しくする会を設立し、上高地の美化活動に繋がる取り組みを続けてきました。

この長年の取組みによりマナーは向上していることから、今後は、野生動物による被害について、関係団体と協働して対策をしていきたいと思っています。

【市長コメント】

美しい上高地が当たり前だと思って感じているところですが、ゴミが目立った状況をここまでにするために、先人の方々が努力をされたから今があるという意識を新たにしました。

ゴミの問題のその先に、今度は脱プラスチックや脱炭素の部分も、もう一歩先に進んだ活動を、この上高地を中心とした地域で展開をしていきたいと思っています。ぜひ一緒に取り組んでいただきたいと思います。

【教育長コメント】

今の上高地は昔とは印象が変わったと思います。

その鍵は、上高地を美しくする会の地道な活動があったことを改めて伺って感謝の気持ちで一杯です。今の時代は、環境に配慮する時代ですので、みんなが当たり前前のこととして、唯一無二の自然を守っていくことを一緒に続けていきたいと改めて思いました。

(5) ・移住者①

私が見た魅力としては、すごく自然が多い、先ほども皆さんから話がありましたが、その自然が身近にあることが何よりも美しい。

私はこの素晴らしい自然の中で、山と一緒に登りたい。それがこの地域の教育の先端にあるから、そういう目線や気持ちで、ぜひ大野川小中学校や大野川区町会と一緒に盛り上げていきたいと思っています。



また、松本市になって、市の制度に合わせたり、均一化されてきましたが、今後は、地域に合う教育を目指すべきです。この小さい学校こそ本当に良い教育ができる素材はたくさんありますので、ぜひお願いします。

・移住者②

東京など大都会で良いとされる教育は、パソコンができるとか英語ができるとか、でもそれはどこでもできることですが、東京の学校にこの自然を持って行くことは絶対できません。安曇地区の皆さんは、すごく得をしていると思います。

そこで、松本市のモデルとして、大野川小中学校独自のこころしい教育を行うことはできないでしょうか。

【市長コメント】

今の提案は、私が教育行政で一番やりたいことです。しかもそれをやれるのは大野川小中学校だというふうに市長に就任する前から思っていました。

大野川中学校を公立学校教育の先端的なモデル校にするということは、非常に理にかなって必要性の高いことだと思います。

そして、山で新しい教育を行うことを、今日のこの会をパワーにして加速させたいと思います。

【教育長コメント】

先ほどの先進的な学校というのが、実は全国で生まれており、私立の軽井沢風越学園では、東京から風越学園の教育を受けたいために移住をして、異年齢のクラスで学んでいます。

この取組みは、安曇校や大野川校でもできることがあると思いますので、そのサポートを教育委員会や市が行うことで、皆さんの夢がかなうことができると思いますので、ぜひその時は地域の皆さんもご協力いただきたいと思います。



【市長コメント】

先ほど、松本市の制度に合わせる制約の話があまりました。その結果として、均一化画一化があらゆる領域で進みました。私はそれが進み過ぎたと思っておりますので、これを一定程度戻すことが、私が市長になって地域拠点の強化というような表現で行っているものです。

地域の独自性を発揮できるような方向に持っていくことが、非常に重要な部分として、地域の小中学校の地元の皆さんの理解を得て、そういう方向に持っていきたいと思います。

・移住者③

最初の頃は、仕事の関係上なかなか地域のコミュニティに参加することができませんでしたが、地域の人たちは自分たちの状況を理解して受け入れてくれたことで、自分たちのスタイルでいいと考えるようになり、少しずつできたらいいかなって思えるようになってきました。

先ほど、生徒さんの発表がありました。きちんと形で映像等に残していけるものがあると、生徒さんにとって、すごくやりがいがあるものになると思います。

生涯学習としてのあり方とか、学びっていうものをいろんなところで発表していく場があったらいいということを提案したいと思います。

【市長コメント】

地域の人たちが、様々な人たちを引きつけているのは、寛容であるとか自立を受け入れるというような要素があると思います。

大人の世界で最先端の仕事をしている人たちのノウハウが中学生の段階から触れることができたり、それを目にする人たちが注目することで連鎖が起きてくる。そうした可能性や兆しということが起き始めているので、それをもっと我々がバックアップすることだろうと、皆さんの話を聞いて感じました。

【教育長コメント】

地域に様々な資格を持った方がいらっしゃるので、ぜひ学校で生徒の指導等にご協力いただき、子どもたちに一流のノウハウを教えていただければと思います。

【傍聴者】

地域に住み続けるには、自然の魅力が大事だと思いますが、今日も皆さんのお話を聞いて、やっぱり人が魅力だということを改めて思いました。

私も移住者の1人として、住み始めた当初は自然の魅力に惹かれて来ましたが、住み続けている理由は、自分と同じ思いだったり共感できる仲間がいるから続けられていることを実感しています。今後も人の魅力を伝えていきたいと思っています。

【教育長感想】

いろんな人を受け入れる寛容さ、それが自然プラス安曇地区なのかなということに改めて感じました。

そのことを気付かせていただいた皆さんに感謝したいと思います。

教育環境が充実できるように頑張っていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

【市長感想】

多様性とかダイバーシティという言葉が、社会の中で一番大事にしていく必要があるという状況が、このコロナを境に一気に広がっていると思います。

今まであまりにも画一的に行ってきたものが、ばらけていく過程で、選択肢を増やす一つとして、非常に魅力的な選択肢を、私は安曇校・大野川校で目指すことができると思います。

ぜひ、安曇校・大野川校でいろんな形で実現に向けた歩みを進めていきたいと思っています。

今日、色々な話を中学生の皆さんに聞いていただいたことで、今後、生徒さんの何かの糧になったり、参考になると思っていただけであったとすれば、それが一番意義があったことだと思います。

